

対象地域	フランス リヨン (及びローヌアルプ地方)	在リヨン領事館事務所 リヨン日本人センター治安情報収集チーム	
		作成日	対象期間
調査方法 新聞	Le Progrès 他	2008年6月30日	2008年6月
集計情報の流布	未	在留邦人対象に各団体及び領事館ルート	
調査項目:	① 邦人対象の治安情報 ② テロなどの一般治安情報 ③ 今月の出来事 ④ その他の情報		

## 報告要旨

### 1、邦人対象の治安情報

- A、一般的傾向
- B、地区別 犯罪集計結果:補足文書 1
- C、多発の手法と場所の特定、防止策 :補足文書 2

#### A、一般的傾向

今月は、オート・サボワ地方で死亡者の出た踏み切りにおけるスクールバスと列車の衝突事故があった。フランスでもまだまだ踏み切りが多く、警報が鳴ったら列車が接近してくるのが見えなくても絶対に踏切内に入らないこと。また、熱帯夜が続いて窓を開け放して就寝することも多いと思われるが、建物の上層階でもバルコニーなどを伝って泥棒が侵入する恐れがあるので、窓は開けても雨戸は閉めておくなどの注意が必要である。オートバイや車が接近してきたの引ったくりという事件は今までにも報告したが、今月は自転車による引ったくり事件も報告されているので、外出時には一層の注意が必要である。

#### [補足文書 1]

##### B、地区別 犯罪集計結果

#### [補足文書 1]

#### 2008年6月集計結果

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	リヨン東	リヨン西	リヨン南	リヨン北	アン県	イゼール県	ロワール県	合計
すり																	0
空き巣	1	3					1	2		8	1	2	2				20
置き引き																	0
引ったくり			1				1			2							4
万引き										1							1
強盗		1	1				2			3		1					8
窃盗(車・自転車)		1											1	1			3
カージャック													1				1
車内盗難																	0
猥褻行為・強姦																	0
いたづら電話・迷惑													1				1
脅し・暴力行為	1	1	1	1	1	1		2	1	9	1		1	1			21
詐欺(カードなど)		1	1					1									3
拉致・誘拐										2			2				4
破損・放火														1			1
ストーカー																	0
麻薬取引・所持													1				1
飲酒/無免許運転			1						1	1	1						4
その他								1		1			1	1	1	1	6
合計	2	7	5	1	1	1	4	6	2	27	3	6	7	4	1	1	78

備考欄: リヨン東→ Meyzieu, Saint-Priest, Bron, Vénissieux, Villeurbanne, Saint-Fons  
 リヨン西→ Craponne, Chaponost, Francheville, Tassin, Brindas, Brignais, Ecully, Sainte-Foy-Les-Lyon  
 リヨン南→ Oullins, Pierre-Bénite, Saint-Genis-Laval, Givors, Vernaison  
 リヨン北→ Rillieux, Vaulx-en-Velin, Décines, Caluire, Genas

\* 数字はプログレ紙に掲載された軽犯罪の記事の数で、統計的な意味はない。

## [補足文書 2]

### C.多発の手口と場所の特定・防止策(新聞による報道記事から)

#### ① 中学生を乗せたバスが踏み切りで立ち往生、7人死亡

6月2日、オート・サボワ県の踏み切り内で、郊外学習に出かけていた中学生を乗せたスクール・バスが立ち往生したところに郊外列車が衝突。バスに乗っていた7人が死亡、25人が重軽傷を負った。いまだに原因追求のために捜査が続けられている。この事故は1982年高速道路A6 コット・ドール県ボーヌ付近で夏休みのキャンプへ赴く途中のバスが複数の乗用車と衝突後炎上、子供46名を含む53人が焼死した事故以降、子供を乗せたバスに関する最悪の事故となる。

2007年末、フランス全土において約1万9,000の踏切が存在し、そのうち1.8%の340箇所が危険な踏み切りとされており、毎年130件ほどの衝突事故により40人ほどが死亡している。今回事故のあった踏み切りは「危険」な分類には入っていなかった。(プログレ紙6月3日付)

ローヌ=アルプ地方にも多くの踏み切りが存在している。警報機が鳴り出したら、遮断機が下りるまでに時間がある踏み切りもあるが、他の車が進んでいるからといって踏み切り内に入ったりすることの無いよう気をつけること。

#### ② 就寝中に家屋に忍び込む

6月3日深夜、リヨン市北西のポレミュール・オー・モンドール市で家主の家族らが一階で就寝中にドアの鍵をこじ開けた泥棒が侵入。泥棒らは地上階を物色しノート・パソコンと財布、および見つけた車の鍵を使って乗用車を奪って逃走した。住人らに怪我は無かったが犯人はいまだ見つかっていない。(プログレ紙6月6日付)

在宅中でも貴重品の管理には十分に気をつけ、特に財布や鍵などは寝室に隠しておくなどの注意が必要である。

#### ③ 自転車で近づいてきた若者による引っぱり

6月17日午前10時頃、リヨン7区のトラム・ウェイ停留所ジャン・マセで、73歳の男性が携帯電話で通話中、自転車で近づいてきた若者に電話をひたすら奪られた。犯人はそのまま逃走。男性は精神的ショックを受けたものの身体的な被害はなかった。(プログレ紙6月19日付)

オートバイや車による引っぱり事件は今までも数多く報告されてきた。以降はVelo'Vが普及して市内を走る自転車の数も多くなっているが、近づいてくる自転車にも気をつけること。

#### ④ 貴重品の入ったかばんを盗まれてから、身分を偽られての被害にあう

2006年8月、18歳の女性がリヨンのアパートで貴重品の入ったかばんを盗まれた。警察に盗難被害届けを出した後、アパートの鍵を換え、カルトブルーの使用停止手続きもすませたが、以降17件ものTCLの罰金催促状が手元に郵送されてきた。これは何者かがTCLで不正を働いたさい、盗んだ身分証明書を使用して身分を偽っているためとされている。この女性は何度もTCLに罰金取り消しの手続きに出向かなくてはならず、近くこの事件を裁判所に持ち込む予定。(プログレ紙6月18日付)

このように、身分証明書を盗まれると、全て規定の手続きを行っても様々な犯罪に巻き込まれる恐れがある。貴重品の管理には十分に気をつけること。

#### ⑤ 池などでの水死が相次ぐ

気温が上がり、水浴などに出かける機会も増えるが、池などでの水死事件が報告されている。水浴禁止の標識があるところでは絶対に泳がないこと。また、子供連れの場合には一瞬として目を離さないことが大切である。

- 6月22日午後6時半ごろ、アン県ミリベル・ジョナジュ公園の監視区域外の湖で20歳の男性が溺れ、病院に運ばれたがその後死亡するという事件があった。この男性は家族で同公園を訪れ、監視区域外にある場所で水浴をしていたが急に姿が見えなくなったため家族が監視員に通報。監視員が船で現場に駆けつけ、男性を発見し救急措置を施した後、救急車で病院に運ばれたが朝方死亡した。ミリベル公園には4箇所の監視員のいる水浴地域があるが、男性はこの地域以外で溺れていた。公園管理局によると、毎年3人ほどの死者がでるが全て監視地域外での事故であるという。同管理局では安全そうに見えても、大変危険なために監視地域以外での水浴はしないように呼びかけている。(プログレ紙6月24日付)

- 6月23日午後、アン県コモランシュ・シュー・ソーヌの娯楽施設で友人ら4人と水浴に来ていた16歳の少年の行方がわからなくなったと通報があった。憲兵隊と消防隊の捜査の結果、24日午前1時頃、水浴していた場所付近で少年が水死しているのが発見された。死因は溺死で憲兵隊は詳しい事故の状況などを調べている。(プログレ紙6月24日付)

## 2.テロなどに関する一般治安情報

今月は、サボワ県で列車に爆弾をしかけたという電話があり、TGVがストップ。爆弾処理班が介入するという事件があった。

6月20日19時頃、エクス・レ・バン市の消防署に「今エクス・レ・バン駅に停車中のパリ/アヌシーのTGVに爆弾を仕掛けた」との匿名電話があった。ただちに警報が出され、列車の乗客を全員避難させた後、列車にあるとされる爆弾の捜査を開始した。捜査の結果、爆弾は発見されなかった。同消防署はこの夜、合計4件の同様の匿名電話を受けた。

同日午後1時30分過ぎ、ル・ドーフィネ紙の編集部はエクス・レ・バンとシャンベリー間の線路に爆弾を仕掛けたという匿名電話を受けた。ただちに警察に通報し、同区間の線路を通行止めにしての捜査が行われたが爆弾は発見されなかった。

その後午後4時過ぎ、再び同編集部が同人物からと見られる「編集部あての手紙を公衆電話ボックスに置いた」との匿名電話を受けた。警察が指定の公衆電話ボックスに駆けつけ封筒を発見。爆発物がある危険性もあるために爆発物処理班も待機して内容が確かめられた。犯人はテロ組織を名乗るもので、内容は爆弾騒ぎにも触れていた。警察によって犯人探しの捜査が進められている。(ル・ドーフィネ紙ウェブ版6月21日付)

、

## 3. 在留邦人の被害事例

ローヌ=アルプ地方における被害報告は特になし。(在リヨン領事館ソース)

## 4.リヨン、ローヌアルプ地方今月の出来事

### ① ローヌ=アルプ地方で暴風雨が吹き荒れる

6月に入ってまたもや暴風雨が吹き荒れた。9、10日にはローヌ県、アン県にて局地的に大雨が降り、道路が灌水したり樹木が倒れるなどの被害が出た。(プログレ紙6月10、11日付)

### ② リヨン南西で非合法の製薬施設が発見される

リヨン南西のメシミー市で、一般住居を改造し、抗がん薬を不法に製造していた施設が発見された。調べによると「CHOISIS LA VIE」という名のアソシエーションを通してフランスでは医薬品として認められていない抗がん剤をフランス全土向けに販売していたとされている。(プログレ紙6月4日付)

### ③ 運送業者らが軽油・ガソリン価格急騰に関してデモ

5月末よりフランス全国、およびスペインで、軽油・ガソリン価格急騰による経済的圧迫を理由に長距離トラック運転手らによる抗議運動が広がった。スペインでは死者もでたこの運動に対して、6月5日運輸担当相は社会保険費や職業税などの分割払いを認めるなどの支援策を提案した。しかしながら、この提案策を不十分と判断した運送業者らは、6月16日に全国的に道路を占拠してのデモを行った。ローヌ=アルプ地方でも幹線道路を封鎖するデモが行われ、交通は大混乱。ただしこの日はバカロレア受験の初日に当たったため、受験者に考慮して午前9時以降の封鎖となった。(プログレ紙6月6、17日付)また、30日にも高速道路A7とA42の一部を閉鎖するデモが行われた。(プログレ紙7月1日付)

### ④ ポージョレー地方の実験用動物飼育施設で放火

6月29日、ポージョレー地方にあるサン=ジェルマン・シュー・アーブル市の医療実験用動物飼育施設で、過激派動物愛護団体の犯行とみられる放火事件があった。動物や職員に被害はなかったが、施設や車両などの大きな物的被害がでた。(プログレ紙6月30日付)

## 5.その他の情報

### ① 旧生徒が校長を脅す

6月10日午前、ヴェニシュー市で金属製の警棒をもった旧生徒である13歳の少年がが中学校に侵入。ただちに立ち去るように注意をした校長を警棒で脅して立ち去った。犯人の少年は警察によって昼過ぎに自宅で補導された。(プログレ紙6月12日付)

### ② ガソリン価格急騰により盗難が急増

ガソリン、軽油の価格急騰が続く中、大型トラックの燃料タンクからの燃料盗難が目立って急増している。大型トラックの中には、2つの燃料タンクに焼く1,200リットルもの燃料を搭載可能で一リットル当たりの価格が1,40ユーロを超える現状では転売目当ての大掛かりな燃料盗難事件が大半である。ほとんどのトラックは盗難防止の燃料タンク栓が取り付けられているが、つるはしや電気ドリルのような道具で燃料タンクを破壊して、電動ポンプを使ってガソリン容器に燃料を移動させ、小型トラックで逃げ去るという犯行が続出。燃料の被害だけでなく、燃料タンクの破損被害も加わるため、トラック運転手らは駐車時には盗難防止栓を外してできるだけトラック同士で集合して停車するなどの工夫をして被害を防いでいる。(プログレ紙6月9日付)

### ③ バカロレア試験

6月16日、全国的にバカロレア試験が開始された。年々取得者が増え続けるこのバカロレアには改革の必要があるとの意見もある。この日予定されていた運送業者の道路封鎖デモは、バカロレアを受験する若者らを考慮して午前9時以降から行われた。(プログレ紙6月17日付)

### ③ 前半は雨続きで後半から猛暑

6月前半は雨続きで気温も低かったローヌ=アルプ地方であるが、後半は日中30度を越す猛暑が連日続いた。